



「大丈夫、もう一度やってごらん」と言える世の中に

副校長 奥原 裕

こどもたちの様子を見ていて、少し気になることがあります。それは、間違えることを極端に怖がったり、正解がわからないことには最初から取り組もうとしなかったりする姿です。いわゆる「失敗」を恐れる心が、かつてよりも強くなっているように感じられます。しかし、その背景には、私たち大人の姿が映し出されているのかもしれません。「わが子が傷つく姿を見たくない」「最短ルートで成功させてあげたい」——そう願うあまり、大人が先回りして目の前の石ころをどけてしまい、「こどもに失敗させる勇氣」を失ってはいないでしょうか。

中国の故事に、「失敗は成功の母」という言葉があります。失敗した原因を深く省みることで、それが後の成功へとつながるという意味です。もちろん、大きな怪我につながるようなことや、他者に多大な迷惑をかけるような失敗を望んでいるわけではありません。深く傷つき、心が回復するまでに長い時間が必要となるような経験は、できる限り避けてあげたいものです。

しかし、日々の小さな「つまずき」は大歓迎です。それこそが、こどもが自分自身の足で立ち上がる力を養うための、かけがえのない学びの機会だからです。大人がすべきことは、失敗をすべて遠ざけることではありません。「失敗しても、そこから学べば大丈夫だ」と思える安心な環境を整えることです。

こうした環境があってこそ、こどもたちは安心して新しいことに挑戦できるようになります。「転ばぬ先の杖」を出し続けるのではなく、転んでしまった後に、「大丈夫、もう一度やってごらん」と笑顔で背中を押せる大人でありたいものです。

ご家庭でもぜひ、お子さんのつまずきを「成長のステップ」として温かく見守り、寄り添っていただければ幸いです。小さなつまずきに対して、もっと寛容な世の中になっていくことを願っています。



花小見守りデー

朝の旗振り当番をはじめ、保護者、地域の皆様には日頃より児童の安全な登下校を見守っていただき、ありがとうございます。

本校では、児童が安全に登下校できるよう、毎月1回、児童の下校時間に教員が通学路を見守る「見守りデー」を実施しています。学校では、決められた道を通ること、寄り道をしないこと、道に広がらないこと、騒がず落ち着いて帰ること、車や自転車などに気を付けるため周囲をよく見ることを伝えています。また、見守り活動をしている際に、気持ちのよい挨拶を返してくれる児童の姿も見られ、うれしく感じています。

一方で、友達と話しながら歩くうちに道に広がってしまったり、周囲への注意が十分でなかったりする姿も見られます。ご家庭でも、今一度、登下校時の安全についてお子さんと話し合っていただければと思います。また、可能な時間がありましたら、一緒に児童の登下校を見守ったり、旗振りサポーターに参加したりしていただけると幸いです。

